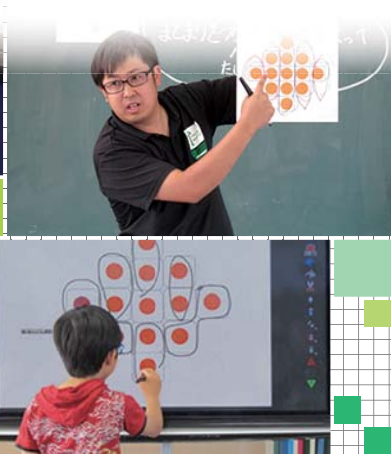


導入事例
てれたっち

児童の考えをスムーズに共有でき、積極性も引き出せる! 教材づくりにも熱が入り、授業の幅が広がる。



蓮池小学校は、平成 21 年から各教室にパソコンと 50 インチクラスのテレビを設置しています。その環境を活用し、「てれたっち」を使ったユニークな授業が展開されています。便利なツールを活かしながら教材作成にも工夫を凝らし、児童たちの学習意欲とクラス全体の一体感を肌で感じているお二人の先生の奮闘ぶりをご紹介します。

※先生のご紹介、学校での設置状況などは取材当時のものです。



※ディスプレイは別売りです。

導入商品

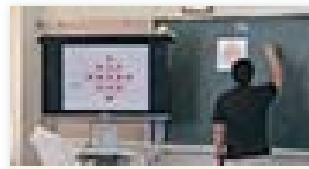
外付け型タッチ化ユニット
「てれたっち」

DA-TOUCH / WB

拡大出力が不要になり、手間とコストが削減された

「てれたっち」を導入して、いかがですか？

水田先生：実際に授業をしていると、児童たちに配布する出力用紙類が多くなります。我々教員は、それらを準備する手間がたいへんです。大きくして見せたい時は、学校にあるポスター印刷機を使って対応しますが、インク代や用紙代などのコストもかかってしまうので、必要性を見極めて使用しています。「てれたっち」を使うと、出力の手間やコストを削減できるので、教員にも学校にもメリットがあると思います。



「てれたっち」を活用する水田先生

「その場」で考え方を共有でき、児童の積極性も引き出せるのが魅力

授業での反応はいかがですか？

栗田先生：私は、「てれたっち」の一番の魅力は、授業の初めの段階で児童の興味を引きつけることができる点だと思います。それから、児童に自分の考えを書かせる場面では、みんな積極性が出たような感じがしました。1 学期を通じて様々な場面で使ってみたら、どの授業でも教室全体に一体感が生まれました。これは、「てれたっち」導入前には無かったことです。

水田先生：どの先生も、授業の中で児童たちの考えを早く知りたいし、それを知ったうえで授業に還元したいと思うはず。で、「てれたっち」を使えば、その場で一人の児童の考えを他の児童にも共有しやすくなります。以前はそれに時間がかかっていましたが、「よくできた!」と声をかけるにも時間を要さなくなりました。児童のモチベーションをその場で上げることができるようになったのは大きな進化ですね。



一体感が生まれた教室

児童はもちろん、教師もたくさん刺激を受けるのが「てれたっち」

教材づくりではどのように活用されていますか？



「てれたっち」を使った算数の授業風景

栗田先生：児童たちの学習意欲が高まってくると、教員も刺激されて教材づくりに熱が入ってしまいます。授業全体をシミュレーションしていくなかで、「この部分はてれたっちを使おう」「ここは画面を見せながら板書しよう」という具合に考える幅が広がりました。白板ソフトや周辺機器との接続など、「てれたっち」の機能をもっと深く知れば、工夫を取り入れた授業のアイデアがたくさん生み出せる手助けを感じました。

水田先生：教材作成ではパワーポイントをよく使っていますが、ベースとなる電子化された教材があればなおさら使いやすくなると思います。児童は、画面内で何か動くことで、興味をどんどん増していけます。私の場合、算数の授業が最も多いのですが、例えば他の授業でも複数枚の挿絵を比べてみたり、間違い探しをしたりしました。

取材にご協力いただいた先生



蓮池小学校
山田 誠亮 校長



あわた 栗田 一也 先生 (4 年生担任)

様々な授業で「てれたっち」を活用し、以前とはまるで違った学級の雰囲気を実感。



水田 修 先生 (2 年生担任)

普通の黒板との組み合わせで、全体の流れを重視した授業を展開する。

CLIENT DATA



導入学校 / 播磨町立蓮池小学校
所在地 / 兵庫県加古郡播磨町
開校 / 1974年

学校にある資産との併用で、より効果的な授業を目指す

普通の黒板と「てれたっち」はどのように使い分けられていますか？

水田先生：授業には「流れ」があります。私は、授業全体の流れや授業のまとめは黒板を使い、拡大して強調したいポイントや、動きなどの演出で理解を深めやすいと判断した時に「てれたっち」を使います。どちらかに偏るのではなく、それぞれの良さを生かすことが大切で、同様の考えをお持ちの先生が多いのではないのでしょうか。

栗田先生：水田先生がおっしゃるように、私も併用派です。その場合、50 インチ程度のモニターで対応可能ですが、もう少し大きく表示したいと思うこともあります。例えば、パソコンからは USB で「てれたっち」のモニターに、同じく RGB でプロジェクターについて両方に同じ画面を出すこともできました。ほとんどの学校にはプロジェクターがあると思うので、少し工夫すれば既存のツールを有効に利用でき、授業をより効果的にすめられると思います。